

別紙様式

組織評価の改善状況報告書

平成 28 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

国際交流センター長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成27年度の改善状況を報告します。

2-(1) 要改善事項
全学的な事務組織の中で、国際交流課の位置づけ・権限を明確にするとともに、浜松地区における事務支援体制として、人員の緊急の配置が必要である。
2-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
全学的な組織改革や静岡大学の国際戦略の検討に合わせて、国際交流課の役割・位置づけを明確にしていく。 併せて人員配置については、現在検討中の「浜松学生支援室」の中で浜松地区の事務組織の整備を進める。
2-(3) 改善状況
平成 27 年 4 月から事務局に国際交流課が置かれたことで、これまでの国際交流センター、グローバル企画推進室の業務だけでなく、大学全体の国際化全般に対応する組織体制になった。また、浜松学生支援課留学生係に 3 名（係長 1、係員 1 非常勤職員 1）の職員を配置されたことで、浜松キャンパスの留学生に対応できる事務組織が整った。
達成年度（予定を含む）
平成 27 年度に達成。

3-(1) 要改善事項
留学生受入れ実績、今後の留学生増への対応、東西キャンパスのバランスなどを考慮し、浜松キャンパスの教員の増員が必要。
3-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
留学生受け入れ並びに日本人学生派遣増への対応のため、国際交流センターの強化が必要である。センターの本部機能と部局対応機能を精査し、浜松キャンパスの人員増を要求する。
3-(3) 改善状況
浜松学生支援課留学生係に3名（係長1、係員1、非常勤職員1）の職員が配置されたことで、浜松キャンパスにおける留学生受入れ並びに日本人派遣増に対応する事務組織ができた。
達成年度（予定を含む）
平成27年度に達成。

5-(1) 要改善事項
国際交流センターとして基本的な機能を果たすための施設の整備が必要。
5-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
教室、会議室及び学生交流室（談話室）の整備を行う。
5-(3) 改善状況
平成27年度末の完成を目指して整備を進めてきた留学生寄宿舍が静岡市駿河区小鹿地区（95室）及び浜松市中区蛸塚地区（95室）に完成した。
達成年度（予定を含む）
平成27年度に達成。

6-(1) 要改善事項
海外への派遣日本人学生数の増加に向け、日本人学生のニーズにあったプログラムなどを開発する必要がある。
6-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
<p>【学生交流部門】</p> <p>グローバル人材育成のための全学的な改革の中で、各部局との連携のもと、協定校との研究室交流や海外インターンシップ等も含めた多様な派遣プログラムを実施する。</p> <p>特に、平成25年度より、かねてから学生の要望が高かった英国・中国での4週間の短期語学研修を春期休業中に実施する準備を行う。</p>
6-(3) 改善状況
<p>学生のニーズに対応すべく、海外留学プログラムの多様化に取り組み、平成25年度に開始した英国・中国での4週間の短期語学研修（春季）に加え、平成27年度には新たに、フランスでの4週間の短期研修（夏季・春季）を開始し、学生が参加した。平成26年度より全学教育科目の英語科目としての単位認定を可能にした英国研修と同様に、中国・フランスについても単位認定の準備を進めている。また、ルーマニアのクザ大学と連携して、エラスムスプラスを通じた教育・研究のモビリティプロジェクトに参加、クザ大学との間で、若干名の学生、教員の双方向での受入を進めている（受入れは平成28年度予定）。さらに、平成28年度前期（第4期）官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～に7名が応募し、国際交流センターで申請や面接のサポートをした結果3名が採択された。平成27年度後期から開始したアジアブリッジプログラム（ABP）の一環としての海外インターンシップに関しては、継続して準備している。</p>
達成年度（予定を含む）
中国・フランスの単位認定：平成28年度達成予定。海外インターンシップ：平成28年度達成予定。クザ大学との教員の双方向の受入れ：平成28年度達成予定。

7-(1) 要改善事項
ホームページについて、広報のツールとして、英語版の充実をはじめとした見直しを図る必要がある。また、本外部評価以外の学外からの評価や提案の受入れ方法についても検討すべき。

7-(2) 要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）

平成25年末までに、国際交流センターHP上の日英版の情報の更新頻度をあげるため、サイトをリニューアルし、協定校の留学プログラム等のコンテンツの充実を図る。更に関係団体からの提案を聞く機会を設けるなどにより、学内の学生及び教職員との情報共有力、学外への情報発信力を向上するための改訂を検討していく。

7-(3) 改善状況

平成27年度末に国際交流センターHPをリバイズし、日英両言語での情報で優先順位の低いものを削除し、見出しをわかりやすくするなどの改良をした。

平成27年度末にアジアブリッジプログラム（ABP）のHPをリニューアルオープンし、英語中心の情報提供とともに、動画情報、SNSなど他のチャンネルとの連携による発信を強化している。また、情報基盤センターの静大TVを通して留学生に関する動画コンテンツを多くアップロードし、静岡大学の英語のHPのトップページで常に新しいコンテンツが見えるように発信している。

達成年度（予定を含む）

平成27年度に一部達成。平成28年度も継続して取り組む。